

令和8年度

大阪市立鷺洲小学校

「運営に関する計画」

◆学校運営の指針◆

《心豊かに力強く生き抜き
未来を切りひらく力の育成》

【学校教育目標】

心豊かな子どもを育てる

令和8年(2026)
大阪市立鷺洲小学校
グランドデザイン(案)



大阪市教育振興基本計画

一人一人を大切に作る“人権教育”を基盤とした学習活動の展開

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- いじめ・暴力行為・不登校の解消に向けた取り組みは、校内体制を整備し、組織的な対応ができており、状況の把握と改善において能動的に取り組むことができています。しかし、不登校の解消は進むものの、新たに不登校傾向となる児童は毎年出ている。新たな不登校を生み出さないためにも、自己肯定感を高め、互いを認め合う中で、「学校へ行くのは楽しい」と思える環境を整えていくことが重要である。
- 全国学力学習状況調査においては、毎年全国平均を上回る平均正答率を示しており、小学校学力経年調査の平均正答率も大阪市を上回っていた。しかし、近年は学年によっては大阪市平均を下回る場所も出ている。全体的に通塾率が高く、知識の理解度は一定レベルを保っているが、どの学年も二極化の傾向がみられる。主体的・自律的・挑戦的に学ばせる指導法・授業スタイルの確立に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の育成に尽力してきたが、本年度以降も継続して推進していく。
- 体力の向上に関しては、児童数増加により運動場の使用制限を行っているため、活動が制限される場面があったが、体育学習の年間指導計画に沿った授業の工夫や、運動委員会を中心とした「なわとび」や「かけ足」などの全校的な取り組みなどにより、児童が進んで体を動かすようになってきている。しかし、体力テストでは依然として全国平均と大きく差がついており、より効果的な取り組みを進める必要がある。
- 児童の学びを支える教育環境として、日々の各教科の学習において様々な場面や方法でICT機器を活用することができてきている。活用率についても全学年にわたり上昇してきているので、今後は活用方法についてさらに工夫し、系統立てた指導を推進していく。
- 近年は教科横断的、そしてより効果的な学習に取り組むためにも、カリキュラム・マネジメントの推進が求められている。複数の教科での連携、地域との連携、効果検証による改善を軸として、効果的なカリキュラム・マネジメントを実現していく必要がある。
- 本校の時間外勤務時間については、毎年の取り組みの中で確実に減少しているが、依然として大阪市の平均値より高い状態が続いている。教職員の負担を軽減できるような取り組みを今後も続けていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を87%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、良いところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 大阪市小学校学力経年調査におけるボリュームゾーンにあたる層の変化率を 1.00%以上にする。
- 全国体力・運動能力・運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を 1.00 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 80%以上にする。
- 校内調査における「研修で得た知識や気づきなどの学びを自分自身や子どもたち、学校全体等に生かすことができているか。」に対して、肯定的に回答する教員の割合を 95%以上にする。
- 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を、前年度より毎年減少させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 82%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、良いところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より 0.1 ポイント向上させる。
- 全国体力・運動能力・運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 0.02 ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 70%以上にする。
- 校内調査における「研修で得た知識や気づきなどの学びを自分自身や子どもたち、学校全体等に生かすことができているか。」に対して、肯定的に回答する教員の割合を 85%以上にする。
- 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を、前年度より減少させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立鷺洲小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安心・安全な教育の推進】</p> <p>(1) 安心・安全な教育環境の実現</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 82%以上にする。(R7 81.5%)</p> <p>(2) 豊かな心の育成</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、良いところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 85%以上にする。(R7 84.7%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【いじめへの対応】</p> <p>いじめアンケートを年 4 回 (5 月、6 月、11 月、2 月) 以上実施し、いじめ事案の早期発見と対応に努めるとともに、児童が SOS を発信しやすい環境と、教職員が児童の状況を多面的に把握し、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかで包括的な支援を行える環境の実現をめざす。</p> <hr/> <p>指標 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【不登校への対応】</p> <p>不登校傾向にある児童に対し、担任や SSR 担当、通級担当などが中心となり、本人や保護者への継続的な働きかけのほか、こどもサポートネットやスクールカウンセラー等との連携の中で、状況の改善を進める。</p> <p>全ての児童にとって学校が楽しいと思えるような、特別活動の充実を図る。</p> <hr/> <p>指標 前年度不登校児童の改善の割合を 35%にする。(R6 末大阪市 34%)</p>	
<p>取組内容③【人権を尊重する教育の推進】</p> <p>ピア・サポート活動や他学年との交流、幼小交流などを行い、人の役に立つ経験や認められる経験を通して自己肯定感や自尊感情を高める。</p> <hr/> <p>指標 「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立鷺洲小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>(1) 誰一人取り残さない学力の向上</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より 0.1 ポイント向上させる。(R6 大阪市 国語-0.20% 算数-0.10%)</p> <p>(2) 健やかな体の育成</p> <p>○全国体力・運動能力・運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を 0.02 ポイント向上させる。(R7 男女 0.93)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【「主体的・対話的で深い学び」の推進（学校の実態に応じた個別支援の充実）】</p> <p>学校、学年の実態の応じた質の高い探究的な学びを推進するカリキュラムを構築する。</p> <hr/> <p>指標 「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 70%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【体力・運動能力向上のための取り組みの推進】</p> <p>授業や休み時間に子どもが運動意欲を高められる活動について、教員への講習会などを行うとともに、区役所や経済戦略局と協力しながら、運動やスポーツに親しむ機会を提供する取組を進める。</p> <hr/> <p>指標 校内アンケートで「体育の授業や休み時間の取り組みなどを通して、できることが増えたり、新しい発見があったりしましたか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 60%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立鷺洲小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>(1) 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション)</p> <p>○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>(2) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり</p> <p>○校内調査における「研修で得た知識や気づきなどの学びを自分自身や子どもたち、学校全体等に生かすことができているですか。」対して、肯定的に回答する教員の割合を85%以上にする。</p> <p>○教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を、前年度より減少させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【ICTを活用した教育の推進】</p> <p>課題を解決するためにICTを活用して情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組を通じて、多様な他者との協働により自己の考えを広げ深められる学びを推進する。</p> <p>指標 「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する3年生以上の児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【教員の資質向上・人材の確保】</p> <p>研究課題に沿った研修をはじめ、メンター研修やピア・サポート研修など、様々な研修を通して教職員の資質向上を図る。また、校外の研修などに積極的に参加できる校内の態勢を整える。</p> <p>指標 「研修を通して指導力の向上につながった」に対して肯定的に回答する教員の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【カリキュラム・マネジメントの推進】</p> <p>教科間連携や学年間連携、地域との連携を意識したカリキュラム・マネジメントを教師の連携のもと各学年で取り組んでいく。</p> <p>指標 教育活動の質の向上につなげるため、『教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる』『学校教育の効果を常に検証して改善する』『地域と連携し、よりよい学校教育をめざす』カリキュラム・マネジメントの3つの側面を実行できていますか。」に対して、肯定的に回答する教員の割合(学年単位)を80%以上にする。</p>	

<p>取り組み内容④【働き方改革の推進】 「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、教職員の働きやすい環境の整備や長時間勤務の解消を進める。</p>	
<p>指標 校内の教職員アンケートで、「作業や会議等の効率化を進め、勤務時間の削減に取り組むことができた。」という質問に、肯定的に答える教職員の割合を94%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	